

テンブリドSC ヒアリに対する室内試験（アメリカの事例）

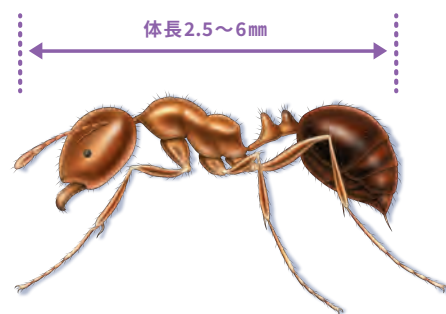
Focus

ヒアリの国内初確認！

ヒアリは南米中部原産の小型のアリで、米国や中国、台湾、オーストラリアなどに生息域を広げており、日本では2005年にヒア리를外来生物法に基づく「特定外来生物」に指定して、国内への侵入を警戒してきました。

しかし、2017年5月26日に遂に兵庫県尼崎市で国内初確認され、また6月18日には神戸港のコンテナヤード内で約100匹のヒアリが見つかっています。

ヒアリは毒性が強く、毒針で何度も刺すほど攻撃性の高いアリです。人がこの毒針で刺されるとアレルギー反応のアナフィラキシーショックで死に至ることもあるため、世界各地で大きな問題となっています。



1 目的

テンブリドSCのヒアリ（学名：*Solenopsis invicta*、英名：Red Imported Fire Ant）に対する効果確認

2 試験

試験方法

テンブリド SC、シフルトリン製剤、イミダクロプリド製剤を、それぞれガラス面と木部面に以下の要領で塗布してヒアリに対する効果を確認した。^{注)}

供試薬剤

テンブリド SC（イミダクロプリド 21.0%、シフルトリン 10.5%）

シフルトリン製剤（シフルトリン 10.5%）

イミダクロプリド製剤（イミダクロプリド 21.0%）

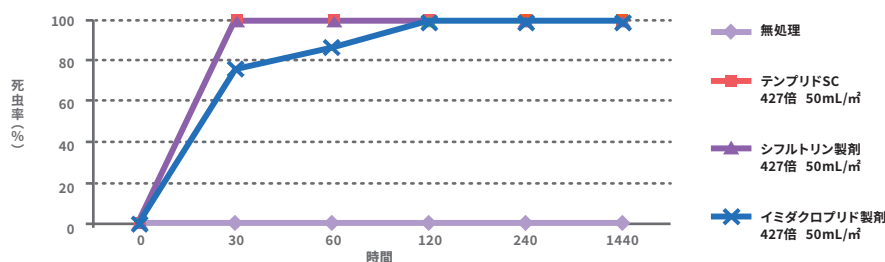
注）本試験は米国ラボにて実施したため、米国テンブリド製剤のラベルに則って希釈液を調製しています。日本においては、テンブリド SC の日本語ラベルに則って使用してください。

種類	希釈倍率とガラス面・木部面への塗布量
テンブリドSC	2.34 mL/1L水（約427倍）、50mL/m ²
シフルトリン製剤	2.34 mL/1L水（約427倍）、50mL/m ²
イミダクロプリド製剤	2.34 mL/1L水（約427倍）、50mL/m ²

テンブリドSC ヒアリに対する室内試験（アメリカの事例）

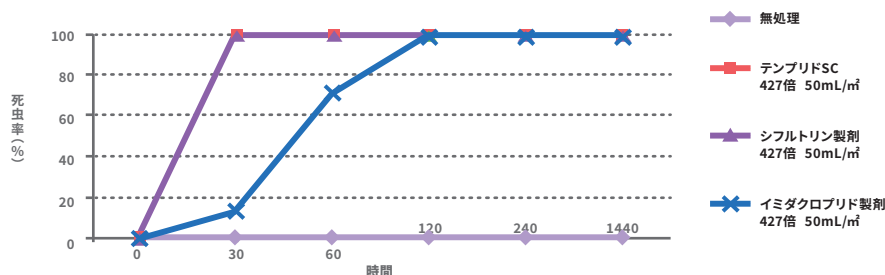
3 結果

ガラス面試験結果



テンブリドSCとシフルトリン製剤は、イミダクロプリド製剤と比べて高い効果を示した。

木部面試験結果



テンブリドSCとシフルトリン製剤は、イミダクロプリド製剤と比べて高い効果を示した。

ただし、ガラス面と比較して死虫率が100%に到達するのが若干遅れた。

また木部面はイミダクロプリド製剤の効果がガラス面に比べて若干遅かった。

4 考察

テンブリドSCは基礎活性としてヒアリに対して十分な効果を有すると考えられる。

なお、使用するにあたっては日本語ラベルにおける用法容量に則って以下の希釈倍率、散布量でご使用ください。

巣への注入処理：200倍、50mL/m²

その他活動場所（蟻道）などは400倍、50mL/m²

ヒアリ駆除処理のコツ

ヒアリはドーム状のアリ塚を作るので、ヒアリや他のアリ塚形成種を処理する場合は、塚全体にたっぷりとテンブリドSCの希釈液をかけてください。穿孔注入も効果的です。その際はアリ塚の下部を集中的に処理してください。また塚内全体にテンブリドSC希釈液が行き渡るように、ノズルを上下したり複数の穴をあけて注入するなどしてください。また、マックスフォース クwantumなどのヒアリに対して有効なベイト剤を組み合わせることで、更に確実な駆除効果が期待できます。

テンブリドSCは2つの殺虫有効成分、イミダクロプリドとシフルトリンを配合したユニークな殺虫剤です。それぞれの殺虫成分の力を最大限引き出すEnvuの高い製剤技術によって、より優れた速効性、残効性、より広範な殺虫スペクトラムを実現しました。